

未来のぼくへ



© 鹿児島県ぐりぶー・さくら

この手紙は、令和6年の夏休みに書いている。外は暑すぎて自転車で学校に行くにも、陸上の練習や大会でも汗が滝のように流れて日差しがヒリヒリと痛い。そして、毎日暑い暑い！と言っている。未来のぼくは覚えているだろうか。

未来で二酸化炭素の排出量を減らす機械や地球温暖化を防ぐためのソフトが発明されていたら嬉しいけど、自分たちの時代に招いた失敗を未来に期待して任せるのは無責任だと思う。だから、今のぼくたちが地球温暖化を学んだり、カーボンニュートラル実現に向けて少しずつ取り組んでいるけど、それは結果として未来に届いているのだろうか。ちなみに、夏休みは冷房や照明やテレビの使用時間を減らすことに力を入れた。寝るとき以外はそれぞれの部屋の冷房や照明は使用せず、リビングに集まり家族で過ごしていた。寝るときは28度の自動運転にして消費電力の節約と熱中症対策を行った。それらの省エネルギーや省電力の取り組みはひとつひとつは、とても小さい努力だが、未来のぼくは、過去のぼくたちが頑張ったおかげで二酸化炭素の排出量は減り、地球温暖化も防げていると自信をもって言ってくれるだろうか。そう言ってもらえるような努力をこれからも続けていこう。

出水市立鶴荘学園 8年 岡崎 大河